

ハルナビバレッジ (群馬県高崎市、青木麻生社長) は10日、清涼飲料水の企画開発拠点「ハルナイノベーションセンター」の内覧会を開いた。プライベートブランド(PB)や自社ブランドの購買層に応じ、開発の方向性を決められる。青木社長は「フラットな思考、自由な発想で飲料をプロデュースして新たな何かを生み出す、そんな場所になりたい」と話した。

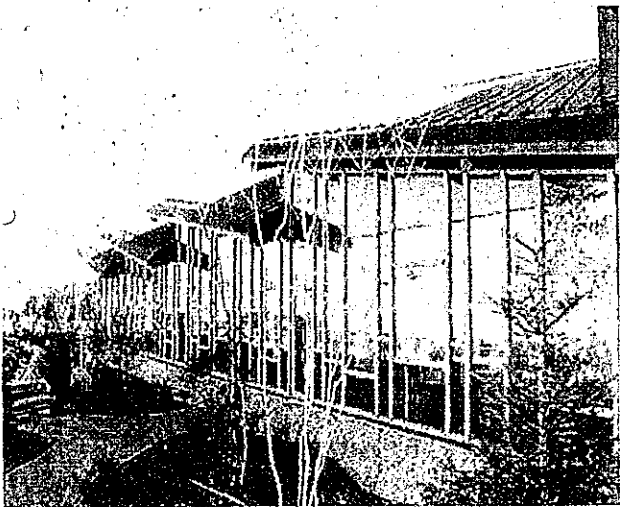
同センターは創業の地である本社と隣接して立地。茶葉やコーヒー豆、果汁、炭酸の有無などを選択し、容器やラベルデザインを決めると、リアルタイム

自由な発想生む開発拠点

ハルナビバレッジ 本社隣接 内覧会開催

でサンプルをつくれ ベーション、2階はオ料をプロデュースできる。その場で試飲し、フィスの各エリアで構る。イノベーションには研究室、開発室、分析室、製造装置などを

木造2階建てで、「1る」「つくる」「手に置いている」ことを通じ、飲



ハルナイノベーションセンター



案内する青木社長(左から3人目)

(高崎)